

練馬区における自主防災組織の活動実態調査
—市民の防災力向上に向けて その4—

準会員 ○ 福田真寿美*1
正会員 久木 章江*2
正会員 石川 孝重*3

自主防災組織 練馬区 防災訓練
市民参加 減災 防災

§ 1 はじめに

近年、首都直下型地震の危険性が注目されている。前報では防災教育について述べたが、現段階でも市民の防災意識を高めておく必要がある。地域住民の防災力を向上することは、その地域の減災に大きく寄与するものとする。そこで、本報では市民の防災力に大きくかわる自主防災組織に注目し、練馬区を対象に実施した調査結果について報告する。

§ 2 調査の概要

自主防災組織は阪神・淡路大震災以降、その重要性が見直されるようになり、その後、組織率は年々増加している。練馬区の組織率は66.0%（平成16年4月時点）で、自主防災組織を「防災住民組織」と呼び、大きく4つに分化している。「防災会」が約269組織、「市民消防隊」が約27隊、「避難拠点運営連絡会」が103校結成されており、その他にレスキュー隊やボランティア等の諸団体が存在する。そこで、この練馬区の自主防災組織（以降、防災住民組織）の訓練等に参加し、活動内容とその問題点について調査した。調査対象とした訓練は、平成17年度に練馬区で実施された12カ所の防災住民組織の活動である。概要を表1に示す。

防災住民組織の役員は全体的に高齢者が多く、参加者は高齢者と子供（小学生）がいる家族が大部分である。

§ 3 各訓練の内容と参加者の評価

各訓練の内容と参加者の評価・問題点等を整理した。

1) 備蓄資器材の運搬・設置、操作

この訓練は組織の役員用の訓練として用意されること

が多いが、市民が体験を希望する場合も少なくない。また使用法だけでなく、収納場所の情報を欲するケースもみられた。参加者からは「震災時にはじめて触るより、訓練で事前に体験し、このような機械があること自体を知ることができてよかった」「一回では覚えきれないので、何回も体験したい」といった意見がでた。

2) 宿泊訓練

参加のきっかけは、「避難所がどのような様子になるのかわりたい」といった意見が多いが、大人よりも子供の参加者が多く、単なる合宿のような雰囲気になる場合もある。また最初は家族で参加する機会が多いが、宿泊自体は子供だけで、親は自宅に帰宅する人が多い。

なお、参加者が多いほど実際の避難所に近くなるので、区民も運営役員も、訓練の効果が高まると考えられる。大人の参加者を増やすことが今後の課題である。

3) 避難者受付訓練

大部分の訓練で実施されていたが、方法は統一されず、避難者に受付カードを記入させる組織もあれば、役員が一人一人確認する組織もある。組織によっては、この受付（受け入れ）訓練を最大の目的としているところもあるが、参加者には訓練の意図があまり伝わっていない。受付訓練の意味や重要性を市民に説明し、協力を得られるよう、訓練を行うことが望ましい。

4) 起震車体験（図1）

参加のきっかけになる人気の訓練である。遊び感覚で体験する子供も多いが、大人は実際に揺れを体験し、地震の怖さを再認識して耐震対策を行うきっかけにした例

表1 各訓練の概要

注：○印は当日実施した訓練

訓練の種類	実施日	訓練時間	訓練開始時間	訓練数	一回の体験時間	一グループの人数	備蓄資器材の運搬、設置	備蓄資器材の操作	防災備蓄庫の説明	パケツリレー	ポンプ実演	煙体験ハウス	救護訓練	AED	ロープ取り扱い訓練	通報訓練	はしご車	受付訓練	炊き出し訓練	配給訓練	仮設トイレ組み立て	仮設トイレ説明	宿泊訓練	寝具の配給	警備訓練	手話講習	高齢者体験	車椅子体験	視覚不自由体験	起震車	防災紙芝居	防災人形劇	震災ビデオ視聴	防災カルタ		
A小学校	宿泊訓練	7月30日(土)	15.5時間	午後5時	9	×	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
B小学校	宿泊訓練	9月10日(土)	16.0時間	午後4時	14	○	30分	60名	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
C小学校	宿泊訓練	9月16日(金)	14.5時間	午後5時30分	7	×	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
D中学校	防災訓練	10月1日(土)	4.5時間	午前9時	9	×	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
E小学校	学校防災訓練	10月24日(月)	2.0時間	午後1時50分	11	×	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F小学校	防災訓練	10月29日(土)	4.0時間	午前8時30分	11	○	25分	30名	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
G小学校	防災訓練	11月6日(日)	4.0時間	午前8時30分	11	○	30分	40名	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H中学校	防災訓練	11月20日(日)	3.5時間	午前8時30分	9	○	20分	50名	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
I小学校	防災訓練	11月23日(水)	2.5時間	午前10時20分	8	×	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

Survey of the Current Activity Conditions of Voluntary Organizations for Disaster Prevention in Nerima-ku
— Efforts to Improve People's Ability for Earthquake Disaster Prevention Part 4 —

FUKUDA Masumi, HISAGI Akie and ISHIKAWA Takashige

もあった。区保有の起震車なので、同日に複数の訓練が重なると使用時間が限られ、全員が体験できない場合もある。



図1 起震車体験の様子

5) 煙体験

体験するハウスが小さいため、息をとめて体験するなど、本来の目的を理解しない体験者もみられた。「とても怖い」「体験してよかった」などの意見も多く、組織側は「市民の反応が良かった訓練」と評価している。災害時の状況などの想定を決めて体験させたり、ハンカチで口を押さえた場合とそうでない場合との違いや、普通の体勢で進む場合としゃがみながら進む場合の違いなど、知識の向上につながる体験方法の工夫が期待される。

6) 消火訓練 (図2)

消火器は震災時だけでなく、日常で使用する可能性もあるが、使用方法を知らない人が多く、体験効果を高く評価する参加者が多い。消火器の数の問題や水の入替時間も要するので、少人数での体験が望ましい。



図2 消火訓練の様子

7) 防災備蓄庫の説明

「備蓄内容や数を聞いて、自分でももっとそろえなくてはいけないと感じた。」など、説明により備蓄の大切さや自助の意識が高まる傾向がある。大人向けの内容であるが、子供にも分かりやすいように工夫したり、ゲーム感覚で体験させている組織もあった。

§ 4 訓練内容の分析・評価

前項で述べたように訓練内容が訓練参加者の増減に係ることや、訓練内容ごとに参加者の反応が異なることもわかった。これらの詳細について、参加者への効果や評価、実施時間や実施人数などの詳細を各種訓練ごとに分析・評価した結果を表2に示す。

組織が「参加者の反応がよかった」と評価する訓練は、参加者も「ためになった」と評価する傾向にある。「起震車体験」「消火訓練」「救護訓練」は全体的に評価が高い。

なお、組織ごとに運営方法は異なる。参加者をグループに分けてローテーションさせ、効率よく市民に訓練の体験をさせる組織もあれば、自由に訓練を体験させる組織もあるが、後者では見学のみになる体験者もできる。できるだけ参加者が全員体験できる工夫が必要になる。

また防災住民組織による各種訓練は、一般住民の参加が少ない点が大きな課題である。参加者を呼び込む工夫や対策として、参加者の望む訓練や人気のある訓練内容を取り入れることが必要であり、継続参加を促すためにも参加者の不満を生まない訓練の運営が求められる。

今後の課題は、防災住民組織が地域住民に何を知って欲しいのかという訓練目的を明確に伝えること、参加者に災害時を想定させた上で体験させること、訓練成果を確認できる訓練を行って運営側の改善を促す工夫などが挙げられる。

§ 5 おわりに

本報では練馬区の防災住民組織による防災訓練の内容とその評価について整理した。次報では市民の防災訓練に対する意識に関するヒアリング調査の結果を報告する。

なお、その4、その5の調査は篠えりか氏(元文化女子大学学生)と共に実施したものである。ここに深謝する。

表2 訓練内容に対する評価

内容種類別	受付訓練	備蓄資機材の運搬、設置	備蓄資機材の操作	仮設トイレ組み立て	防災備蓄庫の説明	炊き出し訓練	配給訓練	起震車	通報訓練	煙体験ハウス	消火訓練	ポンプ実演	バケツリレー	救護訓練	ロープ取り扱い訓練	震災ビデオ	防災に関する講演	人形劇	紙芝居	防災カルタ	サラダ油灯製作	中学生の吹奏楽による演奏	意見交換会	救助犬デモ	はしご車	警備訓練	宿泊訓練	寝具の配給	手話	高齢者体験	車椅子体験	視覚不自由		
																																	○	△
訓練がためになった度合い	×	○	○	○	○	×	×	○	○	△	○	×	×	○	△	△	△	×	△	△	△	×	△	△	×	—	△	△	—	—	—	—	—	
参加のきっかけになる度合い	×	×	×	×	×	△	△	×	×	△	○	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	—	△	×	—	—	—	—	—		
継続参加につながる度合い	×	—	○	○	×	×	×	△	△	△	○	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	△	×	—	—	—	—	—		
意識・知識の向上度合い	×	—	○	△	○	×	×	△	△	△	△	×	×	△	△	△	△	△	△	△	△	×	×	△	△	×	△	×	—	—	—	—	—	
楽しい内容	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
この訓練があれば参加したいと思うか	×	×	△	—	—	△	—	○	—	×	○	—	—	○	—	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—		
組織から見た参加者の反応の良い訓練	×	×	△	—	—	△	—	△	△	△	△	×	×	△	△	△	△	—	—	—	—	—	—	×	—	×	—	—	—	—	—	—	—	
組織から見た参加者が増加した訓練	×	×	×	—	—	△	—	△	△	△	△	×	×	△	△	△	△	—	—	—	—	—	—	×	—	×	—	—	—	—	—	—	—	
適性	大人向け	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
子供向け	△	×	△	△	△	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	△	△	○	○	○	×	△	△	○	○	○	○	○	○
人気度合い	×	—	△	×	×	—	×	×	×	△	○	○	△	×	×	×	×	△	△	○	×	△	○	○	○	○	△	×	—	—	—	—	—	—
一回に体験できる人数(人)	—	—	50	30	—	—	50	30	50	50	—	150	30	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15	—	100	—	—	—	—	—	—	
一回にかかる時間(分)	—	—	30	30	15	—	30	30	30	30	20	25	30	30	—	—	—	30	30	—	—	—	—	40	30	—	600	—	—	—	—	—	—	

凡例：○該当する △やや該当する ×該当しない —評価結果なし

*1 文化女子大学 学生
 *2 文化女子大学住環境学科 助教授・博士(学術)
 *3 日本女子大学住居学科 教授・工学博士

*1 Student, Dept. of Dwelling Environment, Bunka Women's Univ.
 *2 Assoc. Prof, Dept. of Dwelling Environment, Bunka Women's Univ., ph.D.
 *3 Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Dr. Eng.